

持続可能な社会の実現に向けて

株式会社ミダックホールディングス 代表取締役社長

加藤 恵子 KEIKO KATO

2001年 税理士登録
2006年 株式会社ミダックホールディングス取締役就任
2010年 当社取締役就任
2016年 株式会社ミダックはまな（現株式会社ミダック）取締役就任
2019年 当社代表取締役社長就任（現任）
2021年 株式会社ミダック代表取締役社長就任（現任）



2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）は、日本を代表する国際イベントの一つである。一時、資材高騰や人手不足、納期の短さなどの理由から工事が遅延し、開催が危ぶまれたものの、2025年4月13日から開催された。そのテーマに「いのち輝く未来社会のデザイン」が掲げられ、「いのち」をキーワードに持続可能な開発目標（SDGs）達成への貢献に向けた様々な取り組みが紹介される予定である。当博覧会は、未来の地球を考える絶好の機会であり、各国から参加する企業や研究機関が、その最先端技術や革新的なアイデアを披露する場所でもある。

ミダックグループは、産業廃棄物の収集・運搬から中間処理、最終処分までを一貫して行う企業であり、持続可能な社会の実現に向けて環境意識を高める先進的な技術の研究にも取り組んでいる。

一例として、当社グループは学校法人早稲田大学と共同して、焼却施設から発生するCO₂を固定し、最終処分場に貯留する技術の開発に取り組んでいる。同技術は、焼却由来のCO₂を産業副産物とともに最終処分場に固定化することを目的としている。同研究が進めば、管理型最終処分場が単なる廃棄物処分場という役割だけでなく、CO₂を固定化するカーボンキャプチャー施設という新たな価値を見出すことができる可能性がある。

また、株式会社アルヌールとの連携により、脱炭素社会への移行を促進するための微細藻類培養CCU技術の共同研究も行っている。藻類培養は工場等の排ガスから分離回収されたCO₂の固定化の方法として注目される技術の1つである。同研究では、焼却由来CO₂を利用した微細藻類栽培により、高付加価値物質「フコキサンチン」を生産することで、経済性を確保しながら焼却由来CO₂削減を目的としている。「フコキサンチン」は、医薬品や健康食品、化粧品などの成分として高い市場価値があり、その機能性の高さから、多くの研究が行われている。

当社グループは、前述の研究の他にも、大学や他企業と共同研究を行い、2050年のカーボンニュートラル社会実現を目指し、環境負荷低減の取り組みを積極的に行っている。

2025年大阪・関西万博は、持続可能な未来社会の実現に向けた具体的なアクションを促すための重要なイベントである。当博覧会を通じて、多くの人々が持続可能な未来社会への意識を高め、革新的な技術や取り組みを学び、実際の行動へとつなげることが期待される。当博覧会が、SDGs達成の一助となり、持続可能な未来への道筋を示す場となることを楽しみにしている。